このページのテーマ

尿の異常と前立腺がん

鹿児島のドクターに聞く 私たちのこころとからだ

メンタル＆フィジカルトリートメント

「おしっこが漏れる」「おしっこの出が悪い」「前立腺がん」などの悩みは相談しにくいもの。でも診療によってまた自分らしい毎日を取り戻せるとしたら…。奥昭一先生にアドバイスをもらいました。

Q 最近トイレが近くて困っています。ときには少し漏れてしまう事も。何科を受診すればいいですか？（45歳・女性）

A 泌尿器科の受診をお勧めしますが、他の科と比べてなかなか足が向かない気持ちはよく分かります。しかし40～50代の女性の30～40％が尿漏れを経験している、とも言われるので、自分だけかもと心配しないでください。また泌尿器科においても全般的な診察が行われていて、その結果肺がんや肝臓がんなど他の病気の発見につながるケースもあります。あれっと思う症状があるのなら、一度受診をしてみることが大切です。

トイレが近い、尿が漏れると一口に言っても、原因は様々。問診ではまったく同じ患者さんでも、尿検査や超音波、CT、膀胱鏡などの検査を行うと、いくつかのタイプに分けられます。

①腹圧性尿失禁は、せき・くしゃみ・笑う・重いものを持ち上げるなど、おなかに力が入ったときに漏れるタイプ。出産で骨盤底筋群が弱くなったり、閉経で尿道の筋肉が衰えてしまったりすることが原因です。

②過活動膀胱は、膀胱が勝手に縮んだり、過敏な動きをするために、尿が十分にたまっていなくても急に我慢できない尿意が起こってしまうもの。40歳以上の女性の10人に1人がこの症状を経験しているという調査もあります。

③神経性頻尿は、精神的な問題が原因となっていて、「トイレのことを心配すると尿意を感じる」「緊張するとトイレに行きたくなる」というものです。

④溢流性は神経の障害などにより膀胱が収縮せず、尿がいつもダラダラと漏れ出てしまうタイプ。子宮などの手術後に起こる場合があります。

⑤その他として、高齢で手足が不自由なためにトイレに間に合わないタイプなどが挙げられます。

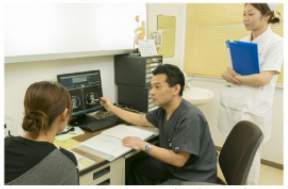
治療は、その原因に応じたものでないと効果がないばかりか、自己判断で薬を飲んでもかえって症状が悪化してしまうことになりかねません。一人であれこれ悩まずに、まずは医師に気軽に相談してみてください。

Q おしっこの出が悪くなってきました。また、年齢的にも前立腺がんが気になっています。どんな検査を、どのくらいの間隔で受けるべきでしょうか？また、前立腺がんの検査はどのように行うのですか？（58歳・男性）

A 男性は中高年になると、おしっこが出にくいとおっしゃる方が増えてきます。これは前立腺が少しずつ大きくなり、尿道がふさがれてしまうことに起因します。反対に膀胱が刺激されて、トイレが近くなったり、尿が漏れたりする方もいらっしゃいます。このような症状を前立腺肥大症といい、50歳以上の約20％の方に見受けられます。

血尿が出たといって泌尿器科を受診される方もいらっしゃいますが、詳しい検査や全般的な診察を行うと、膀胱や腎臓以外のがんや病気が見つかったりするケースもよくあります。お尋ねの前立腺がんの検査には、PSA検査が挙げられます。これは採血による検査ですが、通常の血液検査と一緒に行うことも可能です。また前立腺がんにおけるホルモン療法は予後がいいので、あまり不安に思わず相談してみてください。50歳以上の男性は年に1回のPSA検査をお勧めしています。

病院はできれば行きたくない場所だと思いますが、気になる症状がある時は近くの泌尿器科専門医の受診をお勧めします。



奥医師の診察風景

お答えいただいたDr.

昭南病院

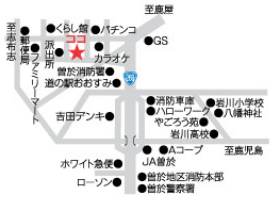
奥 昭一 医師

Shoichi Oku

Profile

鹿児島大学医学部卒業
●日本泌尿器科学会専門医・指導医

昭南病院 MAP



mental and physical treatment series Vol.2
私たちの身近にある様々な病気や悩みについてのアドバイス、専門の病院の紹介など、健康に役立つページ シリーズVol.2

このページのテーマ

IVR（血管内治療）

鹿児島のドクターに聞く 私たちのこころとからだ

メンタル＆フィジカルトリートメント

最近、テレビ等で「IVR／血管内治療」という言葉を耳にしたことがある人も多いのでは。様々な分野におけるIVR治療法について日本IVR学会認定医の朝戸幹雄院長にお聞きしました。

Q 以前、私の知人が交通事故に遭ったときのことですが、IVRで一命を取り留めたそうです。耳慣れない言葉でピンと来なかったのですが、IVRとはどのような治療法ですか？（41歳・女性）

A IVRとはインターベンショナル・ラジオロジー（Interventional Radiology）の略で、血管内治療のことをいいます。エックス線や超音波、CTで撮影した画像を見ながら、体内に細い管（カテーテル）を入れて患部を治す治療法のことです。これによって肉眼では見ることのできない血管内を広げて詰まりを取ったり、また破れてしまった部分を詰めて修復したりすることが可能になりました。相談者のお友達は、交通事故による大量出血の止血にIVRが使われたのだと思われます。このような大量出血の場合は、事故後10～20分で適切な治療ができるかどうかが勝負となります。命を救うためには一刻も早く正確な治療をしなくてはいけませんが、そのためには医師の技術だけでなく、優れたチーム医療が必要となるでしょう。

Q そのほか、どのような病気にIVRを使いますか？

A 急に足が冷たくなったとか、痛くなったという症状を伴う急性下肢動脈閉塞や、自覚症状は殆どないものの、破裂すると命に関わることの多い動脈瘤をステントグラフトを用いるなど、手術なしで治療。IVRは低侵襲で身体への負担が少ないため、入院期間の短縮も期待されます。

そのほか非血管系の分野においてもIVRは多岐に利用されていて、消化管や胆管・気道・尿路等へカテーテルを挿入することにより、低侵襲に配慮した患部の治療が行われるようになりました。この方法により肝がん治療等においては、がん細胞付近にのみ抗ガン剤を投与することも可能です。

また高齢者医療やホスピスなどにおける緩和医療等においては、呼吸不全や食事が取れなくなる嚥下障害、便通不全等を防ぎ、QOL（生活の質）の維持・向上を目指す治療にも使われています。いずれも患者さんが自分の意思で治療法を選べるといいでしょうね。

朝戸院長の診察風景

お答えいただいたDr.

昭南病院

朝戸 幹雄 院長

Mikio Asato

Profile

鹿児島大学医学部卒業
●日本放射線科専門医
●日本IVR学会認定専門医
●腹部ステントグラフト指導医
●医療安全管理者（全日病）

昭南病院 DATA

診療時間	月	火	水	木	金	土	日	祝
8:30～12:30	○	○	○	○	○	○	／	／
14:00～17:00	○	○	○	○	○	／	／	／

TEL099-482-0622

■住　　所／曽於市大隅町下窪町1番地
■HP URL／http://www.aisei-kai.com/
■駐 車 場／100台
■アクセス／東九州自動車道曽於弥五郎インターから車で3分
■関連施設／ケアセンターやごろう苑、北地域診療所、大隅地域訪問看護ステーション、大隅町在宅介護支援センター、総合在宅ケアセンターやごろう苑、他